

平成 25 年 4 月に発生した霧ヶ峰高原における火災の影響調査について

環境部 自然保護課 ・ 長野県 環境保全研究所

1 概要

八ヶ岳中信高原国立公園内の霧ヶ峰高原において、平成 25 年 4 月 28 日に森林化を抑制し草原の保全と再生を目的とした火入れをしたところ、強風にあおられ約 220ha が焼失した。

県では、霧ヶ峰自然保全再生計画の見直しや自然保全再生実施計画への影響がでる可能性があることから、次の調査内容を平成 25 年 6 月補正で予算付けをして、7 月から調査を実施している。

2 調査内容

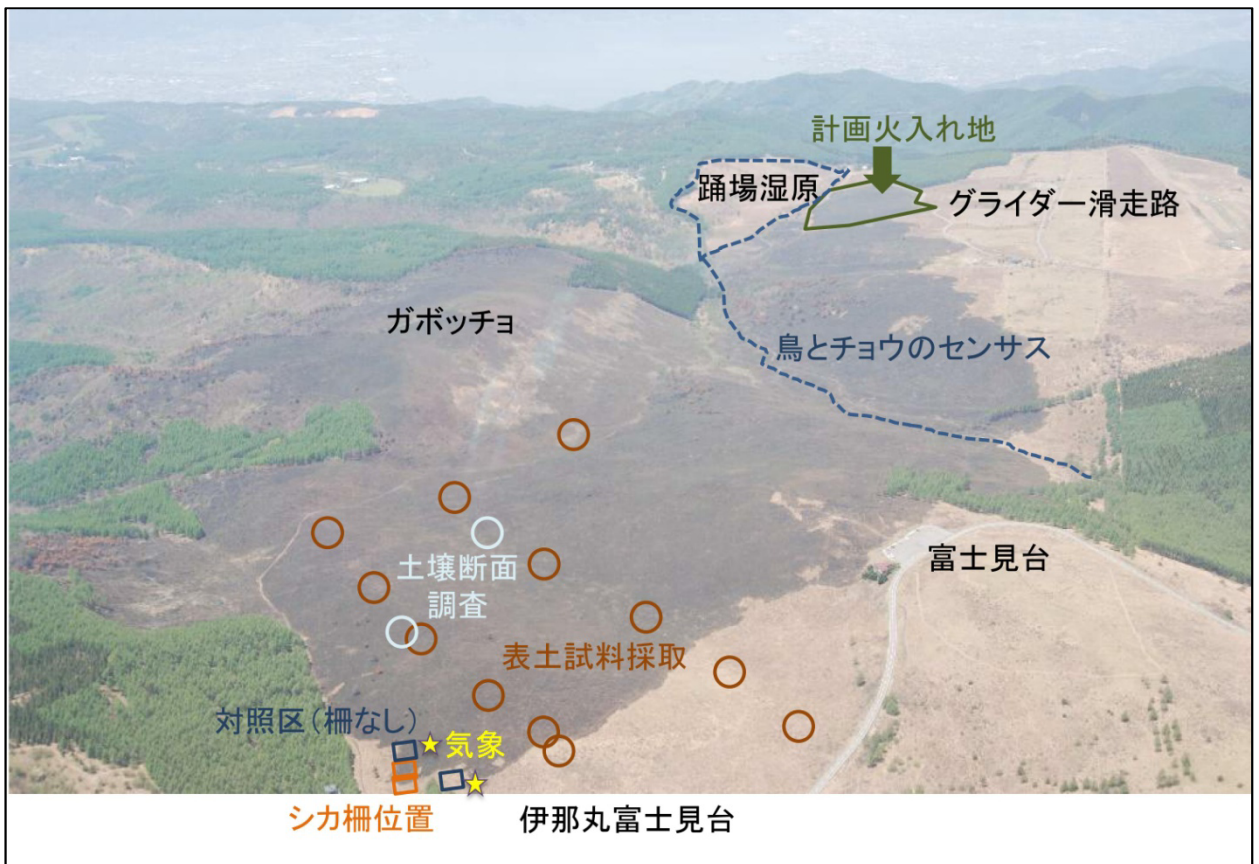
(1) 延焼による霧ヶ峰自然保全再生計画等への影響を検討するため、草原植生については環境保全研究所の設置したシカ柵内とそれ以外の場所において、各々「延焼地」と「非延焼地」の調査枠を設置し、植物社会学的植生調査および立地環境調査を実施している。また、立木への影響を把握するための調査も併せて実施している。

(2) 調査委託者

霧ヶ峰生物多様性研究会(委託期間:平成 25 年 7 月 19 日 から 平成 26 年 1 月 31 日まで)

3 調査地

霧ヶ峰高原（茅野市から諏訪市）以下の場所および踊場湿原上方の草原にて調査を実施



長野県 環境保全研究所による調査

1 概要

環境保全研究所における生物多様性プロジェクト研究事業の一つに位置づけ、霧ヶ峰の火入れ延焼地における、生態系（植生・動物・土壌・気象）への影響を追跡調査するため、以下の調査を実施する。

2 調査内容

(1) 延焼地の植生回復状況の面的把握

空中写真・リモートセンシングデータ利用

(2) 植生への延焼とシカによる影響の調査

○ シカ柵の設置

- ・ 60m × 30m × 高さ 2 mを一箇所（延焼地と燃えなかった場所を含んで設置）
- ・ 対照区（柵なし、四隅に杭）：30m×30mを2箇所（延焼地と燃えなかった場所）
[*シカ柵は伊那丸富士見台の近く、駐車場からの死角に設置]

○ 植生回復状況、開花状況の調査

- ・ 指標種および希少種の生育状況
- ・ インターバルカメラによる植生景観撮影（富士見台およびシカ柵に設置）

(3) 土壌調査

- 表土試料の採取（★：尾根・谷・シカ柵内と対照区内：計 16 地点×100ml×5 試料）
→ 土壌中の栄養塩・酸性度などの測定

- 土壌断面の調査と試料採取（尾根と谷：計 2 地点）【森林総合研究所との共同で実施】
→ 土壌中の炭素量・古環境などの解析

(4) 動物相調査

- 鳥類：目視による現地調査（火入れ地～延焼地）
- 昆虫（チョウ類）：目視による現地調査（火入れ地～延焼地）

(5) 物理環境変化の観測

○ 観測機器の設置

シカ柵の対照区：2 地点（気温・地温・土壌水分・反射日射の測定）

3 調査者

環境保全研究所の研究者（土壌調査の森林総合研究所との共同で実施）

4 調査期間

平成 25 年 5 月 から 概ね 5 年（調査結果を見ながら期間を検討）